作業環境測定 18

作業環境測定士　竹内邦明

「保護具着用管理責任者」とマスクフィットテスト

2024年4月に施行された労働安全衛生規則等の一部を改正する省令により、化学物質のリスクアセスメントをして、リスクが高い場合の措置として労働者に保護具を着用させる際には事業所内で保護具着用責任者を選任することが必要となりました。

化学物質の自律管理の中で保護具を正しく選択、使用することは非常に重要です。今回は金属アーク溶接作業等で2022年から始まっているマスクのフィットテストの実際と、保護具着用責任者についてご紹介します。

【保護具着用管理責任について】

●保護具着用責任者の職務は、

1、保護具の適正な選択

2、労働者に適正な保護具の使用を指導

3、保護具の適正な管理

になります。

●選任要件は、

①化学物質管理専門家の要件に該当する者

②作業環境管理専門家の要件に該当する者

③労働衛生コンサルタント試験に合格した者

④第1種衛生管理者免許又は衛生工学衛生管理者免許を受けた者

⑤特定化学物質、有機溶剤、鉛、四アルキル鉛等の作業主任者技能講習を受けた者

⑥安全衛生推進者の要件に該当する者

になります。

【保護具が必要になるシチュエーション】

保護具が必要になるケースは化学物質のリスクアセスメントを行い、労働者へのリスクがある場合、健康被害が起きないように使用するケースが多いと思います。局所排気装置や作業方法による環境改善も重要ですが、保護具を使用することは有害物のばく露リスクを低減させる上で非常に重要です。

他にも特別則対象の物質を取り扱う際も多くの物質で保護具が必要です。2021年から特化則の対象となった溶接ヒュームや2024年4月から施行されている作業環境測定で第3管理区分となり、改善が困難な作業場では、それぞれの労働者の有害物のばく露濃度等を測定することによりマスクを選択する必要があります。

そして、マスクが労働者の顔面に接しているマスクの場合、それぞれの環境で選択したマスクが労働者の顔にフィットし、性能が発揮できる状態であるかを確認するフィットテストを行う必要があります。

【フィットテストの実績】

当社では2021年にフィットテスターを導入してから約1300人のマスクフィットテストを行いました。

テストはフィットテスターを用いる定量的フィットテストと、味覚試験による定性的フィットテストがあります。テスト用アダプターが販売されていないマスク以外は定量的フィットテストを実施しています。実施する際、みなさん自分の顔にマスクが合っていないという認識をもっている方は少数で、ほとんどの方は合格すると考えていますが、使い捨てマスクの場合半数も合格しないマスクもあり、非常に驚かれます。

顔面との接地面が少ないカップ型マスクは顔の大小や凹凸、発声などの顔の動きにより隙間ができ、そこから「漏れ」が多発します。また、顎髭があるケースも非常に合格率が低く、テストに使用する小さい粒子はほぼ通過してしまう方もいます。

フィルター交換式マスクの場合も、ゴム紐の劣化や汚れにより弁がきちんと機能していないケースで不合格となることがあります。マスクはばく露防止の最後の砦的な非常に重要なアイテムです。

▽

今回の法改正を機に保護具着用管理責任者になられた方はぜひ自社が適切なマスクの選択・使用ができているか見直ししてみてください。

（㈱アイエンス）

● 編集室より資料のご紹介 ●

中央労働災害防止協会編
『実施から記録までがわかる
マスクフィットテスト』（税込242円）
（ご注文は当協会総合受付にて承ります）